

令和3年1月12日(火)定例記者会見

質疑応答要旨

(1)保育士人材確保推進事業の実施について

(記者)

鳴門市では、待機児童はいないということでしょうか。

(市長)

現在のところ、待機児童はいません。

今、幼稚園と保育所の再編をしており、令和4年から幼稚園の一部が閉園します。また、令和4年の秋頃になりますが、公立の保育所を一カ所に集約することになっていますので、その点を踏まえての事業実施となります。さらに、昨年の秋になりますが、民間の施設に対してアンケート調査をさせていただいたところ、給与面や待遇面等において、保育士の確保に苦勞している

というお話をお聞きしました。

さらに、公立の保育所につきましては、今年度から会計年度任用職員になったということもあり、若干、民間と公立の職員で給与の開きがありますので、その点も解決していきたいと思っています。

(記者)

現状、保育士は不足しているのですか。

(市長)

各施設で苦勞をされているようです。

もう少し保育士がいれば、受け入れ人数を増やすことができるという状況ではあります。

(2)いちご狩り観光農園はじめます！

(記者)

うずしおベリーという品種は何ですか。

(市長)

提携しています「フルーツガーデンやまがた」さんが作っているいちごの品種です。

(3)道の駅「なると(仮称)」の施設名称決定について

(記者)

名称が決まり、令和 4 年春、大津町にオープンするということですが、市としてはこの場所を住民や観光客など、どういった方で盛り上げていきたいとお考えですか。

(市長)

ここは国道 11 号線沿いで、北側に鳴門インターチェンジがあり、1 日に上下線合わせて 4 万台の交通量があります。また、JA 大津松茂の産直施設「えがお」も含めると敷地面積は 18,000 m² くらいの広さになります。

地域の方の利用に加え、コウノトリの飛来地に近いことでもありますので、観光地としても多くの方に利用していただきたいと思っています。

また、それに加え、今回ターゲットとしているのが、若い世代、特に女性の方です。SNS が得意だと思imasuので、広く情報を発信していただけるよう、いろいろなコンテンツを考えています。鳴門の新たなランドマークとして PR していききたいと思っています。

鳴門は特に、なると金時・れんこん・梨・わかめ・鳴門鯛などの資源が豊富にありますので、いろいろな工夫をしながらエンターテインメント性のある「食のテーマパーク」を運営コンセプトにし、目的地となる施設を目指したいと考えています。

さらに今、ニューノーマルということをいわれていますので、運営会社と協力し、鳴門の良いものを集め、全国の顧客をターゲットとするEコマース(インターネット上での商品やサービスの売買)による地場産品の販売なども行える施設を整備していきたいと思っています。

(記者)

「食のテーマパーク」ということは、レストランを作るということですか。

(市長)

内容についてはこれから検討していきますが、鳴門の良いものを皆さん方に召し上がっていただきたいと思っています。

(記者)

JA大津松茂の産直施設「えがお」と行き来ができるようになるのでしょうか。

(市長)

できます。

我々としては、両施設を合わせ、道の駅「くるくる なると」という名称を浸透させていきたいと考えています。

(4)徳島ヴォルティス J1 昇格にかかる事業について

(記者)

J1 昇格により、今シーズンは市としてどのような効果が期待できるか、この1年をホームタウンのあるまちとしてどのような1年にしたいかお聞かせください。

(市長)

現時点では、コロナ禍ですので、アウェーサポーターの呼び込みは、なかなか難しい面もあると思いますが、今、考えているのは来ていただける方には、精一杯のおもてなしをしたいと思っています。

前回のJ1昇格時は、本当に手探り状態でしたが、1年をかけて何が求めているのか、今後どのようにやっていったらいいのかということ、ある程度わかりました。残念ながら、翌年にはJ2降格になってしまいましたが、今回はしっかりと前回の反省点を踏まえ、対応していきたいと思っています。

当時、市内にはレプリカユニフォームを着た多くのアウェーサポーターがまちを歩き、飲食店や宿泊施設を利用していただきました。当時の効果から考えますと、J2の2倍の経済効果があると予想されますので、今年のJ2の経済効果が約5億円程度であるとすれば、10億円ぐらいになるだろうと考えています。

ただ前提としまして、観客数はスタジアムの収容人数17,900人の50%の上限があるため、8,900人くらいになります。そ

れでも多くの方が本市を訪れると考えられますので、その点も踏まえて精一杯がんばっていきたいと思います。

そして、子どもたちにプロスポーツ、日本のトップリーグを観せること自体が非常に効果になると思いますし、さらに高齢の方にもサポーターやファンの方がおりますので、PRをさせていただきたいと考えています。

スポーツを「観るスポーツ」、「行うスポーツ」、「応援するスポーツ」の3つの段階で考え、ヴォルティスについては、「応援するスポーツ」にしていきたいと思っています。

(5)鳴門市文化会館休館前記念イベント

(記者)

県民ホールの基本計画を見ながら考えていくということは、何を想定し、どのように考えていくということでしょうか。

(市長)

例えば、車で 30 分の移動距離のところに 2,000 席のホールができるとすれば、文化会館のあり方も変わってくると考えられます。適正規模や県民ホールへの顧客の流れなどについてマーケティングをしながら、今後、どう進めていくべきなのか検討していきたいと思っています。

(記者)

顧客が県民ホールに流れてしまうことを想定すると、どんな選択肢が考えられますか。

(市長)

規模の縮小かもわかりませんが、県民ホールと同席数を考えていくにしても、両立していけるよう、内容も踏まえ、検討していきたいと考えています。

現状として、徳島市立文化センターが閉館し、もともと徳島市であったニーズが鳴門市に流れてきているということもあります。音楽ホールとしては、文化会館が県内でも最上級だと思いますが、今後、地理的なことや最新鋭のホールができることなどを考慮すると、人の流れも変わるのかなと思っています。

以前は4割ぐらいの稼働率でしたが、現在はだいたい6割ぐらいで稼働しています。新ホールの建設により、それが4割以下になるかもわかりませんので、先ほど申しあげましたようにマーケティングも含め、これからの方針を立てていきたいと思えます。